道道真駒内御料札幌線
陥没対策検討委員会

日時：令和７年３月７日（金）15：30～
場所：札幌市中央区北１条西２丁目
札幌市役所本庁舎12階4・5号会議室

1

本日の議事

- １．出席者のご紹介
- ２．本委員会の設置の経緯について
- ３．検討委員会設置要綱（案）について
- ４．委員長の選任について
- ５．今後のスケジュールについて

2

１．出席者のご紹介

【委員】

所属	役職	氏名
国立大学法人　室蘭工業大学 工学研究科　もの創造系領域	教授	木幡　行宏　様
国立研究開発法人　土木研究所 寒地土木研究所　寒地地盤チーム	上席研究員	山木　正彦　様
国立研究開発法人　土木研究所 寒地土木研究所　寒地河川チーム	上席研究員	堀田　伸之　様

3

１．出席者のご紹介

【オブザーバー】

所属	役職	氏名
国土交通省　北海道開発局 札幌開発建設部	道路整備保全課長	久保田　良司　様
北海道　空知総合振興局 札幌建設管理部	治水課長	徳田　愼治　様

【札幌市】

所属	役職	氏名
建設局	建設局長	荻田　葉一
建設局土木部	維持担当部長	竹本　新一
清田区土木部	土木部長	最上屋　知弘

4

２．検討委員会設置の経緯について
（１）陥没発生状況について

- 令和７年２月２６日（水）：陥没の発生を確認

【発生場所】

札幌市清田区真栄３条２丁目

道道真駒内御料札幌線　北行車線（羊ヶ丘通→国道36号方向）

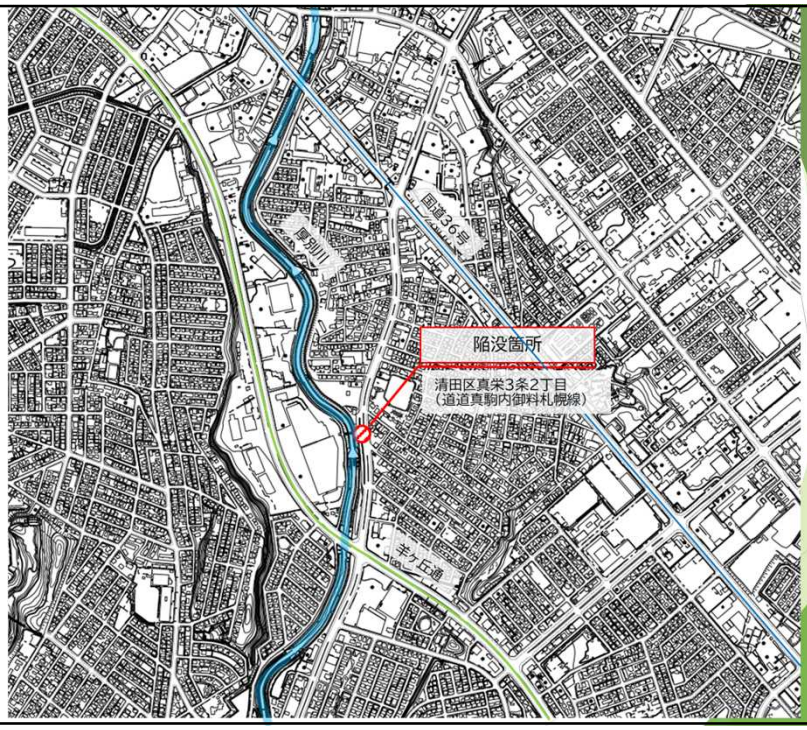
【確認時の状況】

☞舗装に、幅0.6m×長さ0.8m×想定深さ約2.0mの穴

☞ただちに現場の通行規制を実施するとともに、
空洞の状況を確認するための掘削作業に着手

☞この陥没による人的被害は無し

5



6





【陥没発見時の状況】

7

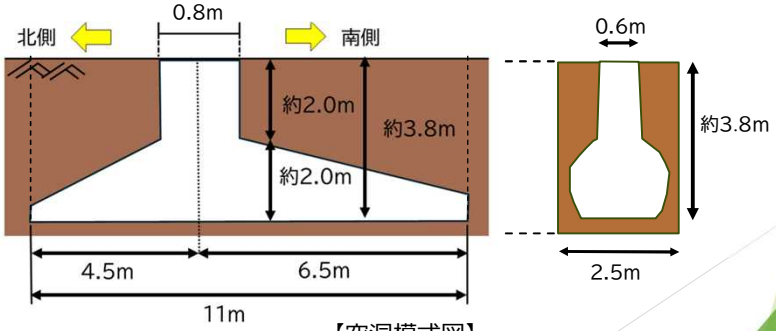
２．検討委員会設置の経緯について
（２）掘削調査について①

【調査日時】令和７年２月２６日（水）11：00～２月２７日（木）11：40頃

☞北海道開発局、寒地土木研究所、北海道から派遣いただいたリエゾンとともに、掘削状況や掘削後の現地確認を実施

【調査結果①】空洞の大きさについて

☞深さ2.0mの位置に、最大直径約2.0m、道路縦断方向に約11.0mの空洞を確認



【空洞模式図】

8



9



10



11

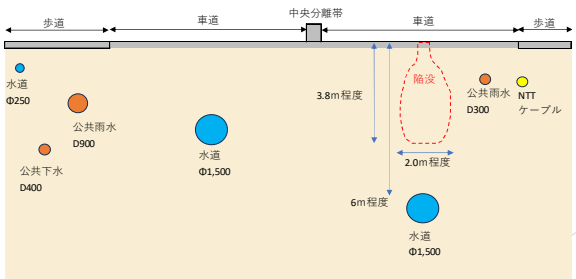
２．検討委員会設置の経緯について
（２）掘削調査について②

【調査結果②】土砂流出先について

☞空洞部分は掘削により全て確認

☞掘削範囲内に、下水道等の構造物は無く、水道管からの漏水も無かった

☞掘削調査からは、土砂流出の要因となるものは確認されず、隣接する厚別川への土砂流出の痕跡も確認されなかった



【地下埋設物概略配置図】

12

２．検討委員会設置の経緯について
（３）仮復旧について①

【仮復旧の必要性】

☞空洞の範囲内に、陥没原因は確認されず、原因特定には時間を要する見込み

☞掘削断面を長時間露出すると、断面の崩壊や、融雪水等の流入による
掘削底面の変状等の二次被害を招く可能性がある

☞掘削範囲内において、短期間で同様の陥没が発生する可能性は低い

☞長期間の通行止めによる市民生活への影響が大きい

現場の状況を記録したうえで、掘削部の仮復旧を実施

13



【砕石埋戻状況】

14



【仮舗装状況】

15

２．検討委員会設置の経緯について（３）仮復旧について②

【復旧後の監視体制】

☞１日２回（午前・午後）の目視点検を実施（国道36号～羊ヶ丘通）

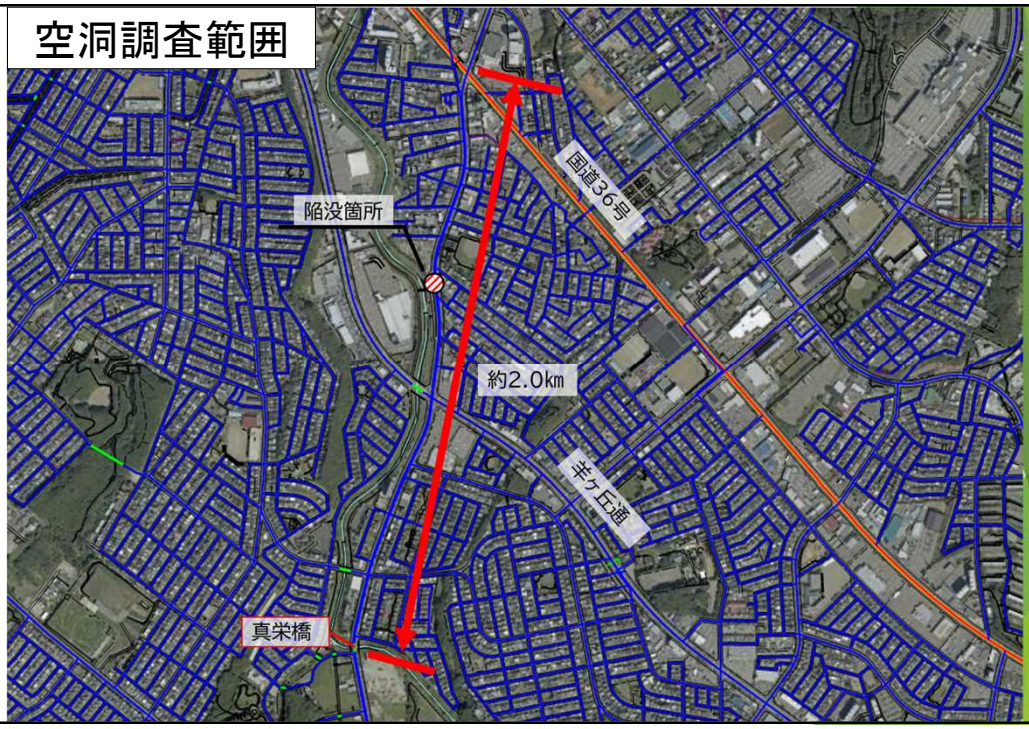
☞交通開放前（２月２７日、２８日）に空洞調査を実施（国道36号～真栄橋）

☞空洞調査は、３月中も２週間に１回の頻度で実施予定

⇒交通開放前の調査では、陥没の危険性のある空洞は確認されていない

16

空洞調査範囲



17

空洞調査状況





18

２．検討委員会設置の経緯について（４）陥没原因特定に向けて

【検討委員会の設置】

☞土砂流出要因及び流出先の特定には、現場周辺の地質分布や地下水及び河川の状況等を把握し、複合的な視点からの検討が必要

☞検討に当たり、地盤や河川に関する技術的知見に精通する有識者からの助言が必要と判断



本検討委員会の設置を決定

19

４．今後のスケジュール（案）について

時　期	内　容	備　考
令和７年３月７日（本日）	第１回検討委員会	
令和７年３月下旬	第２回検討委員会 ・現地状況の報告 ・調査計画（案）について	
令和７年４月上旬	現地調査開始	３か月程度は必要
令和７年７月下旬	第３回検討委員会 ・現地調査の状況報告	
令和７年８月以降	第４回検討委員会 ・現地調査結果について ・陥没原因について 第５回検討委員会 ・対策工（案）について 報告書とりまとめ	調査状況に応じて開催予定

※時期は目安であり、調査状況等に応じて適宜見直す予定

20